

まんねん通信 1号

http://www.g-kaze.com

事務局：〒534-0024 大阪市都島区東野田町2丁目8-2 久豊二番館 株式会社ヒット内5階
TEL:06-6356-8786 FAX:06-6356-0904 e-mail:info@g-kaze.com



おしらせ

初心者のための パソコン教室受講者募集



超初心者の方が、安心して受講できるパソコン教室を風の会は用意しました。少人数制で(1クラス5〜8人)一人ひとりできるまで丁寧に指導します。お孫さんとのメールのやり取りからインターネット、など新しいコミュニケーションの世界を広げてみませんか。ベテランの講師より、高齢者の立場にたった教え方で、コンピュータを触ったことのない方でも短期間で使えるようになります。

1丁時代の新しい世紀を迎え、是非この機会に当教室へお友達とお誘い合わせの上ご参加ください。
(詳しくは、同封のチラシをご覧ください)

★受講者のこえ

同世代の先生に親切にわかりやすく教えていただいて、パソコンの入り口の灯りが見えてきました。来週も楽しみにしていますので、ワクワクして参加させていただきます。ありがとうございます。

初めてパソコンを触ったのですが、時間を忘れてゲームに熱中してしまいました。70歳の方も頑張っているのを見て頑張ろうと奮起しました。

風の会披露パーティ無事終了!

平成十三年七月二十七日産業創造館において、「風の会」披露会が開かれました。参加していただいたお客様は、約80名という盛会になりました。

六時受付開始の予定で始まったのですが、早いうちから駆けつけてくださったお客様もいらっしや、
「風の会」先足に対し、皆様がいかに関心を持ってくださるかを知り、スタッフ一同改めて、感謝の気持ちがいっぱい上がりました。

最初は、いささか緊張気味(?)で始まった河本による「風の会」の趣旨説明で、まずスクリーンに「風の会」を象徴する、大きな木が映し出され、私たちが「風の会」が大切にしている人の輪と、ゴールデンエイジの人達が、楽しみながら活気を持って社会とともに生きる、という「風の会」への熱い思いが河本より語られました。

そして、いよいよホームページの紹介です。安心の輪、充実、やりがい、ヘルスケア、ライフプランと、順序よくサイトの



永い人生の中で初めての経験、不安と期待を持ちながら、風の会パソコン教室の門を潜りました。最初はドキドキ、頭は真っ白でしたがすぐに慣れて楽しい時間を過ごさせて戴きました。まだぜひ出席させていただきたいと思えます。

叶っただんでん

毎日新聞(9月2日)日曜版の、あっとおさか 叶っただんでんコーナーに「風の会」の河本が登場しました。なかなかのけったい振りにメールや電話も殺到中(?)。詳しい内容はホームページのなかで紹介しています。



説明があり、特に健康の知恵・ヨガの紹介で河本のヨガポーズが受けて笑いを誘い、和やかな雰囲気で終わることができました。
何よりも皆様が、終始、熱心にスクリーンに見入ってくださり大変うれしく思いました。

第2部交流会

交流会は田頭経営研究所の田頭規夫先生に乾杯の音頭をとっていただきました。田頭先生は七八歳になられますが現在も現役バリバリで要諦としたお姿はまさしく「風の会」のお手本の様なお方です。



献れたスピーチで乾杯の音頭をとる田頭規夫氏

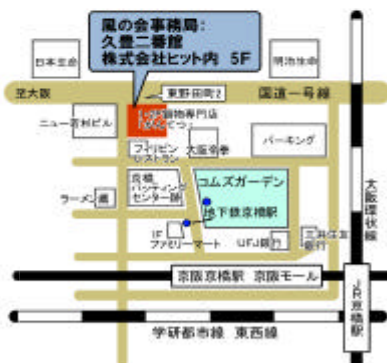
立食パーティーということで、各テーブルなごやかな話声、笑い声、大村氏の絶妙な司会に飛び込み司会(?)青木氏も加わり、なんとプロの歌手アルバート・チカさんがステージ衣装で登場。ラテンを歌っ

風の会 ゴールデンエイジネットワーク

事務局：河本 雪夫
〒534-0024
大阪市都島区東野田町2丁目8-2
久豊二番館 株式会社ヒット内5階
<http://www.g-kaze.com>
e-mail:info@g-kaze.com

Tel:06-6356-8786
Fax:06-6356-0904

access 京阪、JR、地下鉄京橋駅より徒歩5分



大阪市都島区東野田町2丁目8-2久豊二番館
株式会社ヒット内5階 Tel.06-6356-8786



立食パーティーの様子

最後には、河本作詞の「まんねん音頭」を、作曲家である城森氏(本職は一級建築士(有)ヤマシロファニシング社長)の、のりのいいギターとリズムで聞かれました。初めて、「まんねん音頭」を聞かれた方ものりので和気あいあいとした雰囲気のおかげで終わることが出来ました。

ご出席くださった皆様の暖かい励ましの言葉を交えに、ご期待に添えるような、個性的で誰が見ても充実したサイトにしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。

♪はあ〜、あんな〜♪
若い〜、まんねん音頭
を作曲して頂いた
城森氏(左)と
作詞の河本(右)

